

AHW023-P06

会場:コンベンションホール

時間:5月25日 16:15-18:45

## 針葉樹人工林における樹冠通過雨の安定同位体比 Isotopic composition of throughfall in coniferous forest plantation

加藤 弘亮<sup>1\*</sup>, 恩田 裕一<sup>1</sup>, 南光 一樹<sup>2</sup>, 五味高志<sup>3</sup>

Hiroaki Kato<sup>1\*</sup>, Yuichi Onda<sup>1</sup>, Kazuki Nanko<sup>2</sup>, Takashi Gomi<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 筑波大学大学院生命環境科学研究科, <sup>2</sup> 森林総合研究所, <sup>3</sup> 東京農工大学農学研究院

<sup>1</sup>Life and Environ. Sci., Univ. of Tsukuba, <sup>2</sup>Forestry and Forest Products Res. Inst., <sup>3</sup>Tokyo Univ. of Agric. and Technology

これまでに、雨水が樹冠を通過する過程で樹冠通過雨の安定同位体比が変化することが報告されている (Brodersen et al., 2000 ; Liu et al., 2008)。その原因として、樹冠における雨水の選択的な通過プロセスや、樹冠形状に起因する蒸発プロセスの違いが樹冠通過雨の安定同位体比に影響を及ぼすことが指摘されている。しかしながら、樹冠通過雨量および空間分布と、樹冠通過雨の安定同位体比の関係について明らかにした研究はない。そこで本研究では、ヒノキとスギの人工林におよそ 10m × 10m の実験プロットを設置し、プロット内にグリッド状に配置した 20 個の転倒ます式雨量計による樹冠通過雨量の観測を行うとともに、20 個の林内雨サンプラーによって採取された樹冠通過雨について安定同位体分析を行った。

キーワード: 針葉樹人工林, 樹冠通過雨, 安定同位体比

Keywords: Coniferous forest plantation, Throughfall, Isotopic composition